

稲作だより

第2号 育苗編
令和7年4月4日

最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1333

十分な浸種ときめ細かな温度管理を心がけましょう！

◎種子消毒 ～使用方法や注意事項をよく確認！～

昨年は急激な温度変化により、ばか苗病等の病害の発生が多く確認されました。発生を予防するために、まずは適切な種子消毒を行いましょ。

処理方法	注意すべきポイント
薬剤による消毒	希釈倍率・処理時間を遵守。水温は10℃以上をキープ。
温湯消毒（うるち品種のみ）	60℃ 15分、または58℃ 20分を遵守。消毒後は直ちに水で冷却し浸種。
微生物農薬による消毒	温湯消毒と組み合わせると効果的。

◎浸種 ～温度管理をしっかり！～

水温10～15℃、積算水温100～120℃が目安

令和6年産種子は、令和5年産ほどでないものの、高温登熟の影響で休眠が深い可能性があります。

浸種初日の水温は必ず10℃以上を確保しましょう。

水槽は高温とまらない日陰や屋内に設置し、温度計で温度を確認しながら適温を維持しましょう。

＜浸種時水温の影響＞

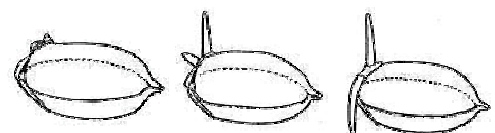
低温	適温	高温
10℃以下	10℃～15℃	15℃以上
出芽が不揃いになる	十分な吸水が可能	ばか苗病等の感染助長

◎催芽 ～芽の状態をよく確認！～

催芽の基本は、水温30～32℃、20時間浸漬

芽の不揃いや過度な伸長を防ぐためにも、ハト胸状態になっていることを確認しましょう。

※ ヒメノモチは発芽が早いので特に注意を！



○ハト胸

×伸ばしすぎ
芽が切れて損傷を受ける
「播種ムラ」が生じる

◎播種 ～苗の種類と播種量を確認！～

播種時のかん水は十分に行いましょう。水分の不足は出芽不良や不揃いの原因となります。また、培土の代わりに育苗マットを使用する場合は、特に水分不足に注意が必要です。

高密度播種苗は、中苗・稚苗に比べ、育苗日数が長くなると老化しやすい特徴があるので、適切な育苗日数となるように計画的な播種を行いましょ。

＜苗の種類と一箱当たりの艀量の目安＞

苗の種類	乾燥艀重	催芽(ハト胸)艀重	箱数/10a	育苗日数	葉数
中苗	80～120g	100～150g	30	30～35日	3.2～3.5
稚苗	150～180g	188～225g	25	20～25日	2.2～2.5
高密度播種苗	250～300g	313～375g	～15	15～20日	2.0～2.2

◎育苗管理

育苗期のかん水には可能な限り水道水や井戸水を使用しましょう。
高温になるとばか苗病等が発生しやすくなるため、注意しましょう。

時期		温度		管理のポイント
		昼間	夜間	
出芽期	加温出芽	30~32℃ 2日程度		・覆土から5~10mm出る状態まで出芽させます。
	無加温出芽	35℃以下 約1週間		・無加温では出芽が揃うように、保温資材を適切に活用しましょう。 ・【 苗ヤケに注意! 】ハウス・トンネル内とマルチ下に温度計を設置し、昼間は適切に換気を行きましょう。
緑化期（1.0葉期） 3日程度		25~30℃	15℃	・朝夕やくもりの日は遮光資材をはがして緑化を進めましょう。 ・晴天時はすぐにハウス内気温が上がるため、 早めに換気を行きましょう。
硬化期 （1.5葉期以降）		15~20℃	8℃以上	・ かん水は午前中の早い時間にたっぷり と行います。日中のかん水は、床土の温度を下げるため避けます。 ・田植え1週間前から育苗ハウスを開放し、徐々に外気にならしましょう。

<プール育苗>

プール育苗は、1.5葉期に箱上まで入水し（カビ等の好気性病害の発生抑制）、ハウスを開放しましょう。プール状態を保てるよう、事前に均平や水漏れ対策等の準備を徹底しましょう。

◎苗の障害対策 ~育苗期間中の主な病害と対応~

地際部や畝周辺のカビ、生育異常等が見られたら早めにご相談ください。

病名	症状(原因菌)	原因	対応
苗立枯病 (総称)	土の表面にクモの巣状の白いカビ(リゾプス菌)	出芽時の高温多湿、厚播き	高温、過湿を避け、日光に当てて殺菌する。
	地際部や畝周辺にピンク色のカビ(フザリウム菌)	低温、pH5.5以上の床土、乾燥、過湿	低温を避け、土壌の湿度を適切に維持する。
	地際部に緑または白いカビ(トリコデルマ菌)	緑化期前後の低温、保水力が小さく、pHが低い培土	低温、乾燥を避ける。
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	第2葉身の真ん中から基部にかけて黄変または白化、伸長停止し、その後枯死する。	出芽後の高温・過湿	高温・過湿を避け、発病した苗は廃棄する。



リゾプス菌



フザリウム菌



トリコデルマ菌

※種子消毒に「タフブロック」「エコホープDJ」等を使用した場合、資材由来のカビ（タフブロック：黄色、エコホープDJ：濃い緑色等）がみられる場合がありますが、苗の生育に害はありません。

●育苗の相談は最上農業技術普及課までお問合せください。☎0233-29-1333